

3年ぶりの仁川訪問（2）

「서담재（書談齋、ソダムジェ）」を後にして、次に向かったのは水道局山タルトンネ博物館。そこに勤める学芸員の方からもメールをいただいたので、博物館に立ち寄ってみました。ここのメインは日本でいうと昭和40年前後の街並みを少し小さいサイズで再現したセットだ。韓国の街並みであるが、日本との似ている雰囲気もあり、その時代を生きた人ならば、懐かしさを感じるだろう。時間があれば、立ち寄るのもいいかなと思うところであったが、日本時代のものはあまりない。

その後は斗山インフラコアという会社の中にある歴史展示室に行ってきた。現在は一般には公開されていないようだが、担当の方に理由を話すと案内してくれた。この会社の前身は日本時代に設立された朝鮮機械製作所で祖父が勤めていた会社である。資料や写真が残っているかもしれないと、僅かな期待を持って行ってみたが、やはり当時のものは残っていないということだった。

30日、ホテルから外に出てみると雪が少し積もっていた。何度も来た仁川だったが、雪が降った仁川を見るのは初めてかもしれない。母の話を思い出していた。母が子どものころは、雪のトンネルが作れるほど、雪が降った記憶があるという。この日は薄っすらと積もっただけだったが、ふとその話を思い出して街を歩いた。



午後は仁川広域市立博物館に行った。こちらの学芸員の方からもメールをいただいていたので、詳しくお話を聞くことにした。この方は「仁川を想う会」のHPを見て、仁川にかつて住んでいた人の集まりである「仁川会」が今でも開催されているのなら参加してみたいというお話だった。私が管理している「仁川を想う会」に会という名称がついているので、集まりもあるのではないかと勘違いしていたようだ。確かに「会」をつけると集まりという感じもする。以前もこのような問い合わせがあったので、HPの名称を変更しようか、検討中。

市立博物館は松島（ソンド）というところにあつて、仁川駅からはずいぶん離れている。2018年にこの博物館に行った時は車でいった。今回は水仁線という路線があるので松島駅まで列車で行った博物館に行ったあとは再び、水仁線を使って安山（アンサン）に行き、20数年来の友人と夕食をいっしょに食べた。その日は安山泊まりとなった。



李くんは私が上海にいた時のルームメイト

翌31日はソウルに出て、皇穹宇を見に行っただ。ネットで購入した戦前の絵葉書に皇穹宇が出ていて、調べてみると現在でも残っていることがわかり、時間もあったので観光がてらソウルに足を伸ばした。「仁川を想う会」を見て、メールをくれた朴さんという方がソウル在住ということで、朴さんと会う約束をしていっしょに簡単なソウル観光もした。朴さんは西大門刑務所で日本語のガイドボランティアもしていて、韓国併合前後の歴史に非常に詳しく、行くところ行くところ建物の説明や歴史的背景を話してくれた。ガイドボランティアをされているので、説明も非常にわかりやすかった。



左から皇穹宇、旧朝鮮銀行本店、旧京城裁判所

ソウル観光を終えたあとはそのままソウルで一泊、安山の友人とソウルの教会で新年のカウントダウンに参加するつもりだったが、疲れていたことと人が多く集まる場所に行くのはやめておこうと思い、一人で年越しをすることにした。

翌2023年1月1日、日本だったら元日は着物を来た人や初詣に行く人で普段とは違った様相となる。しかし韓国は旧正月を祝うため、元日といっても普段の日とあまり変わらない。朝早く目覚めたので、ソウルにいたところに住んでいた街を散策した。登山服を来た人たちと何度もすれ違った。元日だから登山する人が多かったわけではなく、そこは普段から登山する人が多い場所だ。私がいた20年前もそうだった。普段の日曜日と変わらない。懐かしく思った。遅い朝ごはんを食べたあと、地下鉄で南大門に行き、靴や服を買った。市場の通りでは日本語が飛び交っていた。観光客もだいぶ戻り始めているようだ。買った物を入れ、大きくなったリュックを背負い、ソウル駅に向かった。ソウル駅周辺も以前とは変わっていて、駅の向かい側には立派な歩道橋ができていた。ソウル駅から仁川行きの普通列車に乗った。急行のような速い電車もあったが、鈍行でゆっくり行くことにした。このあと仁川では予定はなく1日から帰国日の4日までのんびりと散歩や買い物を楽しむだけ。2023年はこのようなスタートだった。



左は冠岳山登山口近くにあるソウル大学。右は歩道橋から見たソウル駅